

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4190100216		
法人名	社会福祉法人 敬愛会		
事業所名	グループホーム三瀬		
所在地	佐賀市三瀬村三瀬38番地1		
自己評価作成日	令和1年12月26日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	令和2年4月17日	外部評価確定日	令和2年5月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>リビングからの眺望がずばらしく、居ながらにして緑豊かな三瀬村の景色を優雅に満喫できます。全室個室で各部屋にトイレも完備しており、プライバシーの確保ができています。(トイレに行くまでの距離と時間を短縮でき自立に向けてのメリットがあります)ご自分の個室で自由に過ごして頂きながらもご自身の意思でリビングでも過ごして頂けるよう声掛け等の配慮をしています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>平成30年に開設された新しい施設である。同敷地内に特別養護老人ホーム、小規模多機能の施設、通所介護などの施設があり、利用者の状態に合わせた利用施設の選択ができるのは大きな利点である。グループホーム三瀬は施設からの眺望を大事に設計されており、リビングからも自室からも四季の移り変わりを眺めることができる。窓枠を額に自然の風景画を見ることができるのは和みの空間である。事業所の理念「私らしく生きるために、人と触れ合い、優しさと思いやりをもって、心と健康をサポートします。住み慣れた地域の中で、共に支えあい、自らの能力を活かし、穏やかに暮らすことができるように努めます。」を大事にされ、利用者にも視線を合わせた介護を実践されている。</p>

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念として、 ・私らしく生きるために、人と触れ合い、優しさと思いやりを持って、心と体の健康をサポートします。 ・住み慣れた地域の中で、共に支え合い、自らの能力を活かし、穏やかに暮らすことができるように努めます。 理念の共有方法として、オリエンテーション時の説明、事業所内に掲示し、理念にある接し方を日々努めている。	地域密着の施設の意義を職員全員で確認し、地域生活の継続支援を意識して支援している。事務所とフロアーに理念を掲示し振り返りの機会としている。年度替わりには施設の方針を見直している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方の定期的なボランティア訪問で生け花交流を行い、地域とのふれ合いに努め、身近な場所への外出を行い、法人主催の敬老秋祭りや婦人会による慰問、佐賀市三瀬支部文化発表会などへ参加(見物)し交流に努めている。	年に1回開催される地域の文化祭(踊りや歌の発表会)や法人が開催する夏祭りに参加し、地域の人との交流の機会としている。また地域から施設へのボランティア訪問も受け入れている。地域の自然を活かした野の花の生け花交流は定例になっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現事業所状況においては、実施していない。	/	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催。会議では利用状況、サービス状況等を報告。行事や地域活動など情報を頂きサービス提供へ活かしている。評価等への取り組みや改善案などについては、必要に応じて随時報告を行っている。	会議には利用者の代表、家族、地域の民生委員などが参加されている。利用状況や行事等の報告が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	保険者である佐賀中部広域連合や地域包括支援センター、行政等と連携に努め、必要に応じ空き状況や利用に関する相談、料金などの情報交換を行っている。	運営会議だけでなく、随時担当者とは情報交換を行い、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	建物の構造上、玄関以外の出入口は段差もあり、危険防止の為、日中も施錠しているが、中庭で畑を作ったり建物外への散歩などで閉塞感を感じさせないよう支援に努めている。身体拘束に関するマニュアルを作成、職員へ周知徹底に努めている。2ヶ月に1回の運営推進会議で入居者に対する身体拘束状況を報告している。ケア提供状況に応じて、身体拘束にあたるか否かなど検討確認を行い、身体拘束がないよう取り組んでいる。	身体拘束についてはマニュアルが作成され、年間計画の中で研修が行われている。利用者の外出の癖や傾向をつかみ対応している。家族や近所の人にも理解を求め、見守り声かけや連絡してもらえ関係を築いている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関するマニュアルを作成、職員へ周知徹底に努めている。また、入浴時に全身観察にも留意している。年1回法人施設内において、高齢者虐待についての職員研修会を開催。研修会で学んだ事を職員同士情報を共有している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は安心サポート、成年後見制度について学び、対象者があれば関係機関へ相談できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約手続きの場合、書面にて説明し同意を得ている。気になる点については、理解が得られるよう分かり易い言葉で説明を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事務所玄関側に意見箱を設置。契約説明の際に第三者苦情、相談窓口を説明。ご家族等の意見については、運営推進会議や面会来所時など意見や要望等があれば、必要に応じて対応、速やかに改善を行うよう努めている。	利用者とは日々の暮らしの中で、ご家族とは面会時などに何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに留意している。外部評価の家族へのアンケートで出された意見に(例えば喫煙の問題)についても検討を行い、一方的な通達にならないようにこころがけている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回スタッフ会議や年2回個人面談、その他常日頃職員から意見があがった際に、協議を行い業務改善、効率化や処遇改善に努めている。	ミーティングや、勉強会、個人面談を定期的に行い、意見を聞くようにしている。管理者は職員の気づきやアイデアを運営に取り入れ、質の確保に繋げている。管理者は専門的な知識や技術について相談や指導されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事評価表を設けて職員の努力や目標に対する姿勢を把握し、個人面談を行いながら、職員の悩みや意見を聞く場を設け処遇改善、環境整備改善など努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内施設内研修会や施設外研修会へ参加できる機会を設け、事業所内において研修報告を伝達している。介護業務に役に立つ情報があれば、資料を配布し職員間での情報共有に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修会への参加や法人内研修会、勉強会などで意見交換や交流を図り、サービス向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用前にご本人並びにご家族と話し合いを設けて、現在困っていることや、不安なこと思いや意向など、ゆっくり傾聴できるように努めている。 入居初日は特に不安なく過ごせるよう、職員は声掛けや促しを意識し、ご本人の好まれる居心地のよい環境作りの配慮に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安や要望、サービス利用についての意向や想いなど、傾聴に努め可能な限り意向を尊重し対応。状況を確認・把握しながら必要と思われる提案を行い慎重に対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用前に、ご本人とご家族の要望を伺い、優先順位を考えたくうえでサービスを利用して頂けるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員とご本人共に暮らしを営み、協働する事で人生の先輩から学んだり喜びや悲しみも分かち合える関係を築けるよう努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話連絡の際は、積極にご本人の状態を伝えながら同時にご家族の意向も伺い、ご家族にも出来る事は協力してもらおう事で、共にご本人を支えていくよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前通っていた施設へ職員と訪問したり、ご家族の協力支援により、馴染みの床屋や美容院へ外出。事業所へ近所の方や知人の来所があった際、ゆっくりと交流できる場の提供に配慮している。	年の初めには地元の神社にみんなで三社参りに出かけている。携帯電話は自由に使用してもらっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングでの余暇活動や会話がしやすいよう座席配置に配慮。協働作業を行う際も入居者様同士の人間関係を把握し、スムーズに活動が行えるよう配慮している。 対話の少ない入居者には、可能な限り個別に職員が声掛け配慮を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等で退所されても、ご家族とは入院経過を伺い、必要に応じて関係機関等との連携や情報提供に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居前に本人、家族に思いや暮らし方の希望、入居に対しての意向も把握し、アセスメントや日常会話の中からこれまでの生活習慣や生活リズム、過ごし方など情報収集に努めている。 意向困難な場合は、無理に入居を進めずご家族へ確認、本人の意向把握に努めている。	日々の関わりの中で把握に努めている。言葉や表情から真意を推し測ったり、それとなく確認するようにしている。意思疎通が困難な方はご家族や関係者から情報を得るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報・アセスメントシートの様式及びセンター方式を活用する事で、生活歴や暮らし方、生活環境など情報収集に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間生活変化表を活用する事で、生活リズムや心身の状態を把握し、小さな変化に気付いて現状を把握できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ会議やケアプラン作成協議ノートを活用し、随時及び更新前月にスタッフ職員よりプランに対する評価、新たな問題(ニーズ)など情報、意見を収集しモニタリング、アセスメント作成し、ケアプラン(介護計画)の作成に努めている。また家族へ課題とケアのあり方について面談。ケアに対する希望を賜る。	職員全員で情報を共有しながら、介護計画を作成している。情報共有のひとつの方法としてケアプラン作成協議ノートを活用している。悩んだ時は広域連語の担当者の助言を頂くこともある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や業務日誌へ健康状態や日々の状況を個別に記録。申し送りなども含め入居者の状態変化など情報共有に努め、臨機応変な対応や計画見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族のニーズに対し可能な限り柔軟な対応に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的なボランティアの来所によって、地域交流の場になるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を希望される方と往診を希望される方に分かれ、ご家族の協力も得ながら受診や往診に対応している。必要に応じてかかりつけ医との連携に努め、健康維持に繋がるよう支援している。	入所者の半数はかかりつけ医を継続されている。受診前に状態報告書を作成しかかりつけ医にファックスで伝えている。協力医院による往診は週1回ある。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要に応じて、かかりつけ医の看護師及びご家族へ相談、報告。早期診察や対応ができるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院される際、病院関係者(ソーシャルワーカー)と情報交換を行い、入院中もご家族やソーシャルワーカーと連携に努め、退院になった場合も同様に連携を通して関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	法人より、当施設では終末期の対応は行わない。重度化した場合や終末期のあり方については、契約の段階で介護の重度化へ状態が変化した場合、対応可能な他施設への調整支援に努めます。	重度化に伴う支援については、事業所が対応しえる最大のケアについて入居時に説明を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員会議などでAED、緊急セットの配置、使用方法の確認を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署や地域の方の協力も得て、法人全体で避難訓練、自主訓練を実施。その後、参加できなかった職員に対し、職員会議時に伝達講習を行っている。	自動通報装置があり、自動的に消防署、施設関係者、地域の関係者に通報が行くようになっている。同敷地内に併設施設があり協力体制がある。管理者は初期消火と利用者の避難が最優先であると訓練時には説明している。スプリンクラーは設置されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員全員、個人情報保護に関する契約を交わし、ご利用者一人ひとりを尊重した言葉かけに十分配慮して対応を行っている。	個人情報に関する記録物は施錠して保管されている。接遇に関する研修は法人全体の研修で行われている。日々の介護の中では目立たずさりげない声かけや対応をこころがけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できるだけ分かりやすい言葉かけを行い、自己決定ができるような対応を行っているが、ご本人の希望に添えていない場面もあり、職員が不安に思う時がある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所の大まかな流れはあるものの、個人への声かけ、随時意向を確認しながら、自身の生活ペース、気分や意向を尊重して気持ちに寄り添いながらゆっくり過ごして頂くよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔保持、季節に合った装いといった点について、気を付けているが、おしゃれ等はご自身で取り組んで頂いている。ご家族の協力もあって、馴染みの店で散髪をして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	副食のつぎ分け、各お膳へ配る作業、食事後に食器を洗うなど職員と一緒に協働して頂き、食べる喜びを感じて頂けるよう支援している。	朝食は施設で作っている。炊飯や味噌汁の匂いや包丁の音が空腹を刺激する。施設の庭で栽培した野菜や椎茸を使って食材にすることもある。利用者それぞれの能力に応じた協働をこころがけている。アンケートによる要望なども献立に活かされている。施設独自にケーキ作りをしたり、個々人に合わせた食事の量の調整などもしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設施設の管理栄養士の献立に基づく食事提供。自ら水分を積極的に摂られない方には、職員が声かけ促しを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛け促しを行い、状況に応じて義歯洗浄やケアの介助を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握し、ご本人の訴えと職員の声かけ支援でトイレ誘導や聞き取りで個々に合った支援を行っている。	各部屋にトイレがある。排泄管理表を記録し便秘対策の参考にしている。布パンツ、紙パンツそれぞれの状態に応じた対応を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や軽運動などの実施。排泄チェックにより体調維持に繋がるよう個々に応じて排泄状況の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一人ひとりの要望や心身状態を考慮しながら入浴回数も決定し、その日の体調やご本人の都合に応じて入浴日を変更するなど、ニーズに合わせた支援を行っている。	毎日入浴日である。行事等の日課が午後に計画することが多く、午前中に対応しているが本人の意向を尊重し変更することもある。チェアインバスを導入されており、ジャグジーの機能もある。職員にも利用者にも好評である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動や夜間の環境整備に努め、安眠の支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	アセスメントなどから服薬情報、状況確認を行い、ご家族、事業所看護師等を中心に処方に基づいた服薬ができるように支援している。内服薬で気になる点やご利用者の変化については、随時ご家族、かかりつけ医等へ報告、相談を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとり心身の状態やその日の気分などに応じて、余暇活動の提供や洗濯物干し、たたみ、掃除などの役割を持って過ごして頂けるよう支援している。天気の良い日は、事業所周辺の散歩や畑作業、外周りのゴミ拾いや外で洗濯物を干すなど在宅での生活を意識した支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出行事を企画できる時は、車で出かけられる事もあるが、普段は事業所や隣接する事業所の敷地内を散歩する事もある。また、ご家族へ外出行事への付き添い協力の声掛け促しも行っている。	敷地内の散歩は日常的に行われている。自宅が近い利用者は自宅まで外出している。洗濯物干しを屋外で職員と一緒にしている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常生活の継続、認知力低下予防などの意味で金銭管理や取り扱いは大切だと考えるが、サービス提供時におけるトラブル防止の為、所持しない。管理はご家族に依頼。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用開始の時点で、社会交流などの面で活動域が低下されている方が多く、なかなか電話や手紙のやり取りをする機会がないのが現状。遠方に住むご家族や親類などからの電話は、取り次ぎ介入支援は行っている。携帯電話を所持されている方もおられ、電話の扱いが分からなくなった時など、介入支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	気候に応じ、室温や湿度、換気などに配慮し、季節の花を飾ったり、環境整備に努めている。	共有空間の中にオープンキッチンがある。大きな窓からは公道を往来する車の様子、四季の移りが目に入り、緩やかな時間の流れがある。気温や湿度、換気にも心配りされている。雑木林の中にある菜園、椎茸の原木など暮らしを感じることができる。玄関からの長い廊下には落ち着いた椅子が置かれ運動の休憩や団らんに使われている。	
53		共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	馴染みのテーブル席の配置。気の合う少人数で過ごせるよう居場所作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドやクローゼットの配置は必要に応じて、ご本人、ご家族と検討対応している。タンスやテーブルなどは、使い慣れた物を持参して頂いている。	寝具やタンス、椅子など持ち込まれ利用者の居心地の良さを配慮されている。自室にトイレがあるのも落ち着いて過ごすことのできる環境である。居室の掃除は利用者と職員が一緒に行っている。掃除が行き届いている。洗面所の湯は38度に設定され安全である。寝具は朝、職員がたたみ、整理整頓されている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー設計、動線域において障害物に配慮し廊下やトイレ内に手すり等を配置、安全性を確保。できる限り自力で移動、日常を過ごして頂けるよう支援している。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目))(事業所記入)
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない